

## 1 山梨県内公共図書館の概況(平成 27 年度)

新図書館建設に関する動きとして、富士川町では、11月に町立図書館基本構想検討委員会が「ぶらり来て いつでも誰でも 来(らい)ぶらりー～足を運びたくなる図書館づくり～」をコンセプトとした基本構想をまとめ、現在の4倍にあたる10万冊の蔵書を目指すことや、富士川舟運をはじめとする日本全国の舟運関係資料の収集を図書館の特長とすることを提言した。

市町村立図書館の主な動きとしては、山梨市では、リニューアル工事のため2016年11月まで休館となっている市立図書館の代替施設として、11月13日「夢わーく山梨」内に仮図書館を開設し、新刊を中心に資料提供を開始した。大月市では、絵本作家の仁科幸子氏が館長に就任し、10月には県内で初めて雑誌スポンサー制度を導入した。韮崎市では、3歳児健診で絵本をプレゼントするセカンドブック事業を4月より開始するとともに、事業用の絵本リスト『えほんのせかい』を発行した。また、同月より開館時間を20時まで延長し、利用者の利便性の向上を図った。甲斐市では、読んだ図書のタイトルなどを自分で書き込むことができる「読書記録手帳」の配布を12月より開始した。また、中部公民館閉館に伴い、3月31日をもって中部公民館図書室を閉室した。北杜市では、5月より「金田一春彦ことばの資料館」所蔵資料のデジタル化に向け準備を開始したほか、9月より「八ヶ岳定住自立圏」構築の一環として、長野県富士見町図書館、原村図書館との相互貸借を開始した。身延町では、4月町立図書館ホームページ内「身延町地域資料」において、特産である「西嶋和紙」のウェブページを公開した。また、8月より生後4か月児を対象としたブックスタート事業を開始した。

また、開館記念事業として、笛吹市では御坂図書館10周年記念事業として講演会を、中央市では田富図書館20周年記念事業としてスタンプラリーを開催した。

県立図書館では、6月2日に静岡県立中央図書館と連携協定を締結。両館の富士山関連資料を活用し、国内外への情報発信などに取り組むことを確認したほか、災害時には保存資料を互いの図書館で受け入れる協議を進める方針を固めた。9月には、国立国会図書館サーチと「山梨デジタルアーカイブ」の連携を開始。地域資料のアクセシビリティ向上に努めた。また、昨年度から始まった県教育委員会が進める「やまなし読書活動促進事業」の一環として、今年度も様々なイベントを開催。「第2回贈りたい本大賞」では、昨年度を上回る2,617点の応募があり、5作品が大賞に選ばれた。9月には県内公共図書館の協力を得てリーフレット「図書館司書が選ぶこんな時、この一冊」と「山梨県立図書館の職員が選ぶこんな時、この一冊」を発行した。また、6月21日には椎名誠氏、11月11日には北方謙三氏、3月19日には小池真理子氏を招き、講演会や阿刀田館長とのトークショーを開催、それぞれ約200名が参加した。

◆図書館設置率（平成28年4月1日現在）

市区立図書館 100%（全国平均 98.8%）  
 町村立図書館 50.0%（全国平均 55.1%）  
 （『日本の図書館 2015 統計と名簿』日本図書館協会  
 図書館調査事業委員会/編集 2016.2）

◆図書館設置市町村（20市町村）

甲府市	上野原市
富士吉田市	甲州市
都留市	中央市
山梨市	市川三郷町
大月市	身延町
韮崎市	南部町
南アルプス市	昭和町
北杜市	忍野村
甲斐市	山中湖村
笛吹市	富士河口湖町



図1 県内図書館設置市町村